

第4回松原市図書館適正配置等検討委員会 議事録

平成23年10月21日 午前10時～

松原市役所 803会議室

- (委員長) それではおはようございます。定刻となりました。ただいまの出席委員が8名全員そろっておられます。出席委員が定足数に達しておりますので、会議は成立をしておるものとみなしたいと思えます。

これより第4回の松原市図書館適正配置等検討委員会を開催したいと思います。

まず、会議録についてお諮りしたいんですが、今回の会議録ですが、異委員にお願いしたいと思えますが、よろしくお願ひいたします。

- (異委員) はい、よろしくお願ひします。

- (委員長) それでは、これから今日の議事に入りたいと思えますが、前回、2回に分けて8館の視察、皆さん本当に暑い中、御苦勞さまでございました。

いろいろと我々、実際にその現場を見まして、それと同時に、松原市の図書館の現状、あるいは課題、そういうものがつづさに見れたんではないかと思えます。

で、それと同時に私たちが見た、実際に見ていろいろと感じたことと同時に、昨年度、図書館協議会のほうでも答申がされておまして、それは私から以前にも申し上げましたけれども、ここにいろいろともう既に、松原市の図書館に関する現状、あるいは課題、そういうものが浮かび上がっておりますので、そこまで振り返ってというよりは、そこをひとつ尊重して、これからの議論を検討していきたいと考えております。

で、その第2回目、第3回目の視察を振り返りながら、いろいろと検討していきたいと思えますが、まず、事務局のほうから、今日はいろいろと資料も事前に配付されておりますが、それについてのいろいろな説明があるようでございますので、そちらのほうからよろしくお願ひできますでしょうか。

- (館長) おはようございます。それでは、今、委員長から御指示がありましたので、まず、皆様方に送付させていただきました資料を、お手持ちでお持ちでしょうか。

それでは、さきに、まず2回目、3回目の視察のおさらいを簡単に私のほうからさせていただこうかなと思っております。

それでは、まず、施設の概要について、まず、松原図書館というのを一番最初に見学していただきました。これにつきましては、松原図書館、単独館でございまして、一応、分館っていう形ではありますけれども、中央館的な要素を備えた館でございまして。

耐震の診断につきましては23年度でやっております、今の調査の上では手直し等が必要ないという形になろうかなというふうに進んでおります。

ただ、2階の空調等の施設というものの老朽化、並びに雨漏り等がやっぱりひどくって、ここ

に今後、かなりの投資が必要であろうと考えております。

次に、情報ライブラリーという建物、図書館につきましては、併設のふるさとびあプラザの2階にございまして、建築年は非常に新しい建物でございます。だから、当然、耐震診断はありません。また、駐車場等も完備しております中で、利用の多い館になっております。

で、3館目、天美西図書館というのがございます。これにつきましても、併用館でございまして、2階に天美公民館がございます。ここについても耐震は必要はございません。ただ若干、施設の漏水っていうんですか、雨漏り等がこの施設も発生しております。

次に、三宅図書館です。三宅公民館がこれも併設しております、反対にここは図書館が2階にございまして、ここにつきましても、耐震診断は不必要というように言われておりますが、施設につきましては、老朽化している空調設備が、この夏、非常に危なくなりまして、やっこの夏は乗り切ったかなということで、次年度以降の予算要求をしていくことを検討しているところでございます。

次に、新町図書館、こちらにつきましても公民館と併設されてございまして、1階が図書館、2階が新町公民館、一番小さな図書館というふうになっております。

で、ここにつきましても、増改築を重ねてございまして、開館としては11年という年数ですけれども、実際は、本体が昭和54年に新設されておりますので、耐震診断が必要という施設でございます。

で、天美図書館でございますが、こちら併設されておりますが、弁天苑というのが1階にございまして、その2階に天美図書館というのがございます。こちらにつきましても今年度、22年度で弁天苑のほうで予算を取りまして、耐震の補強工事を予定しております。

で、恵我図書館に移ります。平成22年に子育て支援センターというのが2階にできまして、1階が恵我図書館になっています。もう建築年から考えれば、昭和57年、29年ということですが、一応、新しい基準を使って57年に建設されたということで、耐震については不必要という判断をいただいております。

ただ、ここにつきましても、空調関係の施設、並びに雨漏りというような施設の老朽化、設備の老朽化というのが問題になっております。

それと松原南図書館、これは単独館でございますが、ちょっと中二階っていう形の3層構想になってございまして、1階にそういうような段差の中層構造がございます。

正直に申し上げて、この建物につきましては、昭和43年の新築ということで、一部、その古い部分については耐震の診断が要るというようなことが考えられております。空調設備が去年、故障しましたので、今年度予算で、この夏に新たに新しい設備を入れかえまして、空調設備が改善されたという館でございます。

以上、簡単におさらいということで、そういう施設8館を見ていただいた後、次に引き続き、先日送付させていただいた資料の説明をいたします。

○(事務局) 先日、郵送で送らせていただきました資料のほうを説明させていただきたいと思

ます。

資料1から5という形でお送りさせていただいております。まず、1がこういう地図でございます。松原市周辺の他市図書館という大きいものですが、

資料2が、その説明になる表でございます。松原市及び周辺他市図書館の比較というものでございます。

それから資料3が、このような縦長で印刷しておる表でございます、これも大きい紙なんですけれども、大阪府内公共図書館の状況ということでタイトルとなっております。

それから、資料4のほうはA4、1枚で、松原市の決算額と図書館費の比較。

それから、資料5が、ホチキス留めしてある分ですが、先日、来館者数の調査を図書館のほうで行いましたときの報告ということで、付けさせていただいております。

それで、資料の御確認が終わりましたら、説明のほうをさせていただきたいと思います。

まず、資料1の松原市周辺の他市図書館と、資料2の松原市及び周辺他市図書館の比較、この2つはセットもので説明させていただきたいと思います。

まず、資料1につきましては、前回までの検討委員会の中で、松原市内の図書館だけではなく、周辺の図書館、どんなところにどんなものがあるのかという、この辺を調べていただきたいという御意見いただきまして、それでちょっと調べさせていただきました。

これは、大体この吹き出しのようなところの、このとがっているところですね、この辺にあるということで御理解いただけるかなと思います。

というところで、このピンク色の吹き出しであるところが、松原市の周辺にある図書館なんです、それを一つ一つ、蔵書数であるとか、貸し出し冊数、それから、いつあいているのか、そういうのを調べたのが、この資料2の表となっております。松原市の図書館につきましても、参考というか、一緒に載せさせていただいております。

それで、この周辺の図書館の中で、松原市の方が特に、例えば買い物に行ったついでであるとか、ちょっと交通の便がいいからとか、それから蔵書数が比較的多いからという形で、利用する可能性が高いであろう図書館につきましては、まず、堺市のこれは新金岡の北のところにあります北区役所の建物のところにあるんですが、堺市の北図書館。

それから、この前の国道309号線をずっと南のほうに行きましたら、美原の美原区役所の裏のほうにあるんですけども、堺市立美原図書館ですね。

それから、松原駅の前を走っている府道大和高田線を藤井寺のほうに向いていきましたら、途中にこの高鷲のあたりで陵南の森図書館、これ羽曳野市立でございます。この3つぐらいになるのかなと考えております。

ほかにも、松原市から徒歩で行けそうなところに、同じくブックステーションはびきのコロセアムであるとか、それから丹比図書館ですね、こういうのもあるんですが、ここら辺は、前の道路が非常に狭いであるとか、それから蔵書数が少ないであるとか、そういう状況の中で、わざわざ市外まで行くという感じではないのかなと考えております。

今回、資料2の表をつくっておりました気がついたので、松原市の図書館は、御存じのとおり駐車場が非常に条件が悪いと。松原図書館と恵我図書館、情報ライブラリー、この辺ぐらいしか車ではいけないんですが、松原市外の周辺の図書館につきましては、大阪市内の図書館、ここにつきましてはスペース等の問題から、車での利用というのは難しいみたいなんですけれども、ほかの図書館は、駐車場はいずれも完備されているという状況でありまして、やはり車社会という状況の中では、松原市の図書館というのは、非常にハンディーを背負っている状況なんかだと考えております。

あと、松原市、館数が非常に多いという中で、1館1館の規模でいえば、これは他市の周辺図書館に比べると、中途半端な規模のものが多くなっているという状況の中で、やっぱりメリハリというところでは欠けるのかなという状況ですね。

続きまして、資料3をお願いします。これは大阪府内の公共図書館の状況ということで、大阪公共図書館協会というのがありまして、そこで府内の図書館のいろいろなデータを毎年、集計されており、これは1年前の平成21年度のときの資料という形になっておるんですが、大阪府内といいましても、千早赤阪村から大阪市まで、非常に規模の差があるというところで、同じ土俵で比較しやすいということで、人口10万人から20万人の市だけをピックアップして比較の表をつくってみました。和泉市から泉佐野市の間ですね、この松原入れて11市という形になります。

で、この表を2つ、同じような表が並んでおるんですが、上のほうが、所蔵資料の本の数であるとか、それから決算額であるとか、すべてその生の数字で入っております。で、下の表は、それを同じように比較しやすいように人口で割り戻した形になります。今回の説明は、主に下の表でさせていただきたいと思います。

この下の表で見た場合、一番顕著な松原市の特徴としましては、やはり館数が非常に多いということになります。人口10万人当たり6.3という館数ですね。ほかのところは平均でいえば、この11市の平均は、下から3行目の平均というやつなんですけど、ここでいう平均は2.5館、それから一番表の下の2行ですね、全市町村平均というのは、その町村等を含めた、ただし大阪市と堺市、政令市での市だけはちょっと除きました。

で、これのこの平均が2館、それから町村を除いた町村と大阪市、堺市を除いたほかの市の平均で1.9という形になりますので、いずれから見ても、松原市は非常に人口当たりの館数が多いというのが特徴として上げられます。

ほかに松原市に近い数値といえば箕面市さんと、それから羽曳野市さんあたりが該当する状況ですが、例えば、羽曳野市であれば、先ほどの資料2に出ておりました、ブックステーションはびきのコロセアムのほうは、蔵書書数が5,000ほどしかなくて、週に3日ほどしかあいてないという状況なんです。非常に、もう簡素な図書館というか図書室という、図書コーナーというイメージですね。こういうのも含めての5館ですので、フルラインナップの図書館が8館あるというか、松原市の顕著な特徴ということになります。

であるがために、1館当たりの蔵書数というものは、どうしても中途半端なものにならざるを得ないというのが、実情でございます。

次に、貸し出し冊数、これにつきましては、松原市は1人当たり年間5.9冊という形になります。これも平均が6.3ですから、平均より低いということになるんですね。

先ほどの話に戻りますけれども、所蔵資料の数でいえば、平均が1,000人当たり2,993冊、松原市は3,887冊ですので、平均以上の蔵書数があるにもかかわらず、貸し出し冊数は平均を下回るという、ちょっと残念な結果となっておりますね。

箕面市であるとか河内長野市、この辺が非常に人口当たりの貸し出し冊数が多くて、松原市のほぼ倍にもなるんですけれども、これは館の魅力の問題なのか、それとも市民の気質みたいなものも影響するのか、それとも交通事情とかその立地条件によるものなのか、その辺、今後、いろいろと考えていかなければいけない部分なのかなと考えております。

この表の右のほう、決算額という形で上げております。これは図書館費総額というところが、どうやらこれは人件費を含んでない表みたいなので、本の購入にかかる費用であるとか、施設の維持管理にかかる費用、それからその他一般事務経費、そういう部分と理解してあげれば結構かと思えます。

これでいきましたら、あとそれから真ん中の資料費、これは本と、それから雑誌、それからビデオやCD、DVD、そういうものも含めた資料の購入費という形になります。一番右の図書費というのは、一般的な本、書籍の購入ということだそうです。

この3つを見ましたら、松原は、ほぼ平均なんですね。平均より微妙に少ないくらいなんです。決して多くはないんですが、ちょっと少ないぐらいで、少な過ぎるわけでもないのかなということなんですけど、今後、施設の老朽化等8館もあって、それが皆、老朽化してきますので、施設の維持管理、非常にコストがかかってくるということが見込まれますので、今後、それが資料費を圧迫していくのではないかと危惧しておるところです。

続きまして、資料4の松原市の決算額と図書館費の比較という形で、過去12年間の松原市の決算書のほうから数字をピックアップさせていただきました。

この表にあります一般会計決算書がありますが、一般会計というのは、松原市、いろんな行政サービスを行っておるんですが、下水道とか上水道、それから国民健康保険、介護保険、そういうやつは別会計、特別会計でございます。そういうのを除く、教育委員会を含めた市の大部分の行政サービスが、一般会計という会計で賄われているわけです。その部分の数字でございます。

それを見ますと、歳出決算額というのが一番左のほうにあるんですが、大体、松原市というのは、この20年ぐらい、350億から400億ぐらいの一般会計の規模という形でずっと推移しております。

その中で教育費、例えば平成10年度であれば58億7,100万、それから後が40億台後半から、ずっと最近では40億台前半という形で、ちょっとずつ減っていつているというのが実情でございます。

この比率というやつを見ましても、10年度14.6%とか12年度12.7%とかだったのが、最近では大体10%ちょっと超えるぐらいという形で、やや減っております。

さらに、うち図書館費というのは、この教育委員会にかかる経費、教育費の中の図書館にかかる経費だけの部分なんです、ここは大体約1%ぐらいあったのが、ここ数年では0.6%ぐらい、これ歳出決算額400億のうちのパーセンテージになります。だんだん、これにつきましては大幅に減っておるといところなんですけれども。

また、教育費に限らず、教育費、図書館費に限らず、最近は少子高齢化が進んでおる中で、特に教育費につきましては、子供の数が減ったりあるとか、そういう要因ですね。

あと、それからほかの部分につきましては、高齢化が著しくふえた、それから景気が悪い、そういうふうなところで、福祉関係、医療関係に非常に予算を持っていかれるという状況でありまして、それ以外の部分は、例えば道路をつくるお金であるとか、それから、我々の給料であるとか、そういうふうな部分も非常に、以前と比べれば、決して多いという状況、図書館費だけが、削られているというわけでは必ずしもありません。

で、この減っていつている図書館費の中で、中身をどういう部分が減っていつているのか、その辺をちょっと見ていきたいと思ひます。

真ん中のあたり、図書館費のうち人件費、物件費、補助費等、投資的経費とがあります。人件費というのは、まさに人件費ですね。我々の給料、それから嘱託職員の方が最近は多いんですが、嘱託さんの給料、その辺を含んでおります。

物件費というのは、例えば施設管理にかかる委託、保守点検の委託料であるとか、光熱水費であるとか、事務費であるとか、それからアルバイトの賃金もここに入ります、そういう部分ですね。

補助費等というのは、補助金であるとか、負担金と言われるものなんですけれども。

それから、投資的経費というのは大規模な施設改修等で、ちょっとした修繕ではなくて、もっと大層なその資産価値を上げるような投資にかかるという形になります。

それで、一番減っておるのが人件費なんです。一番右のほうですね、人件費のうちとありますが、職員給及び手当等というのが、平成10年あたりであれば2億3,300万か。一番多いときでありましたら、平成13年の2億7,300万なんてなっておるんですが、最近では、これが1億台前半にまで落ちております。これにつきましては、やはり団塊の世代が大量退職という形で、職員の数が減っておるといのが一番の要因でございます。

で、職員の数が減ると、8館もあると、とても頭数が回らないというところですので、嘱託さんを新たに採用したり、それからアルバイトさんを採用したりという形で、その辺は逆にふえておるのですが、そういう部分も含めても、広義のアルバイト賃金も含めた人にかかる経費という全体では、やはり相当減っておるといのが実情でございます。

それと修繕料というのが、人件費の左側、物件費のうちというところにあるんですが、これは例えばちょっと電気がおかしくなった。それから、ちょっと水の出が悪くなった。それで、ちょ

っと工務店さんに来てもらって、ちょっと修理してもらったとか、そういう部分、そういうレベルの修繕料でございます。そういう部分につきましては、施設が老朽化しておるので、本来であれば、だんだんふえていくものですが、それがむしろ減っておるんですね。

実際のところ、相当、だましだまし使っているというところで、ぼちぼち、だましだましの限界にきておりますので、今後、ふえてくるであろうと思われまます。

この修繕料のところと、その左、投資的経費のところ、黄色く塗ってあるところがあるんですが、これにつきましては、一番右の備考にありますように、特に大きく改修を行ったときには、こういう形で修繕料とか投資的経費が膨らんでいきますよという形で上げさせていただいております。

それと、図書館にとって一番大切な図書購入費でございますが、これにつきましては、10年ほど前でしたら3,000万を超える部分があったんですが、ここ数年は2,000万円程度に縮小しております、非常に寂しい状況となっております。

続きまして、資料5でございます。これも、前回までの検討委員会の中で、来館者の貸し出し冊数ではなくて来館者は、どういう構成なんですかと、そういうのを調べていただきたいと御意見いただきました中で、先日、8月25日木曜日と9月8日の木曜日、2日にわたって全館で調査を行いました。

ただ、担当の者、大体の見た感じで年齢層を判別しておりますので、これが完全に正確であるかということ、ちょっと厳しいところもあるんですが、大体の目安にはなるかと思ひます。で、大体2時間ごとにそれを集計しております。

それで、8館もありますので、全館の分でやると、逆に資料が、大きくなり過ぎてわかりにくいということで、8月25日と9月8日のそれぞれの全8館の集計を1枚目と4枚目につけさせていただいております。

で、2枚目と5枚目につきましては、時間帯の区別はないんですけども、そのかわり棒グラフで各館の年齢層の分布をわかるようにしております。館名の横にある括弧書きの数字は、その日のトータルの来館者数です。

これを見ますと、松原図書館は、当然のように一番多いんですが、天美図書館が結構多いという形になっております。特に、高齢者の方の利用が多いということが特徴であります。

これは、図書館は2階にありまして、1階が老人センター弁天苑という形で、もともと高齢者が多く来られる環境にあるということが、原因ではないかと考えております。

それと、天美西図書館、情報ライブラリーが結構多いんですけど、利便性であるとか周辺人口が多いという要因があり、情報ライブラリーにつきましては、大人の方の利用が結構多い。

これは松原駅近辺に通勤・通学、それからお買い物等で来られた方が、ついでにここで借りかえをされる、利用される。あと駐車場が情報ライブラリーにつきましてはありますので、近隣の子供だけではなくて、大人が来やすいという環境にあるのかなと考えております。

あと、松原南、新町、三宅あたりが、ちょっと少ないんですけども、これにつきましては、

やはり市の中でも河内松原駅周辺や河内天美駅周辺という人の往来の多いところから比較的遠いというのと、わざわざほかの目的のついでで図書館に行くとか、そういうふうなことでは行きにくい場所であるのかなと。わざわざここに行くのなら、松原図書館に行くであろうという形で、近所の人しか来ないであろうというのが原因かと思われます。

新町につきましては、布忍の駅には近いんですが、駐車場がないとか、それから蔵書数が一番少ない、この辺が実際の来館者の少ないという原因になっているのかなと考えております。

あと、次に3枚目と6枚目にあるんですが、時間帯別に利用者がどれぐらいあるのかというのをこういう折れ線グラフにしてみました。

8月25日にありましては、朝イチですね、まず来館者が多くて、お昼に一度減るんです。で、朝イチは、年齢層で見ますと、高齢者が非常に多いんです。朝イチで高齢者の方が来られて、それで、新聞であるとか雑誌であるとかを読まれる方が非常に多いんです。で、そういう方は、大体お昼御飯を食べるということで、もうお昼ごろに1回、帰られる方が多いです。

午後になりましたら、今度は子供が多いんです。子供は、夏休みでありましたら、子供がみんな連れだって児童書を見にくるんです。それがこの14時から16時の山になります。で、そこから減っていくという形になります。

最後の6枚目を見ましたら、今度はお昼の2時から4時の山がないんです。朝イチの山はあるんですが、午後の山は、天美図書館では多少ありますけれども、山がないんです。これは、やはり新学期が始まり、子供が昼から来にくくなったというふうに見ております。

そして、その分、子供が減りましたので、来館者もトータルで減っておるんですが、来館者の合計を見ましたら、8月25日が1,593名で、9月8日が1,138名、約500ほど減っておるんですが、この減ったのが、丸々子供が減ったというイメージになります。大人であるとか高齢者につきましては、そんなに変わらないという状況なんです。

で、来館者の数が7割ぐらいに減っているんですが、当日の本を実際に借りた方、貸し出し人は664から540ということで、2割ぐらいしか減ってないんですね。余り減ってない。これは恐らく推測なんですけれども、夏休みだから、子供がみんなで友達同士で図書館に行きます。で、本を読んで、またそのまま本を借りずに、本をみんなでわいわいと読んで帰っていくという、そういうライフスタイルの子供が多いのかなと考えているところです。

あとは、8月25日は、この17時半から19時というところ、松原図書館だけは夜7時までやっておりますので、一コマ多いんですが、ほかは夕方からずっと減っているんです。

で、9月8日につきましては、ちょっとふえているんですけれども、これはなぜかというのはわからないんですが、通常、我々の感覚、実感としてあるのは、ほかの分館が閉まった後、7時までの間というのは、来られる方は、ほとんど大人なんですけれども、本を返される方が多い。借りる方は、あんまりいないのかなという感じです。仕事帰りに本を返して帰られる、そういう方が多いという印象を受けております。

以上で、ちょっと長くなったんですが、配付資料の説明を終わらせていただきます。

○（委員長） ありがとうございます。

5つの資料にわたっての細かな説明があったわけですが、ちょっとまとめますと、資料1のほうは、松原市周辺の他市図書館との位置の関係ですね、そういう部分ですね。

で、松原市の市民が利用しやすいと、ほかの他市のというところで堺市立北図書館ですね。それから堺市立美原図書館、それから陵南の森図書館あたりが利用されている可能性が高いと。これは駐車場があるというところが1つ大きいということですね。

それから、資料2のほうは、その羽曳野とか藤井寺、堺、そのあたりとの比較ですね。

それから、資料3が、これもまた込み入ったあれなんですけれども、館数とか、人口10万から20万、松原市によく似た都市を対象にして、冊数、図書館数、それから蔵書数、そういったものの比較をしていると。

要するに、ここでわかってくることっていうと、蔵書数、一番館数が多いというのは1つ、それから蔵書数も多いんだけど、貸し出しがやっぱり少ないというような、そういう傾向が見てとれるということですね。

だから、それはどう解釈するかによるんだろうと思うんですが、一つはやっぱり館数が多いから、分散化しているというようなところもあるようにも思われます。まず一つは、こういうあれですね。

それから、もう一つが4番目は、これもまた、市の財政との関係から図書館費等なんですけど、どこの市町村も、地方自治体も財政、非常に苦しくて最近はなってきた、減少・縮小傾向にあるんですけど、松原市もその例外ではないということで、図書館費、教育費のうちの図書館費もどんどん少しずつ縮小していくということ。

で、人件費というのは、これもかなりの部分まで、これまでもう削られてきているというふうな解釈してよろしいんでしょうか。

で、一番大事なこの図書購入費、一番かどうかわかりませんが、図書購入費もどんどん落ちてきている、このあたりも関連させながら、適正規模のことも考えていかないといけない。

それから、資料5のほうは、これはこの委員の方々からの要望もありまして、恐らく図書館には最近滞在型のそういう機能もあるんじゃないかというところもありまして、どれぐらいの来館者数、来館者数で見てみるというのも、1つの見方ではないかというところで、統計をとっていただいたものです。

ちょっとこれ見ますと、朝、午前中、非常に高齢者の方々の来館が多いと。で、夏休み中には、子供たちの来館が午後、多いというような点ですね。

それから、人数が夏休み中と新学期が始まってから減っているんですけども、これは児童数、子供たちの来館が減ったということで減っているんですけど、貸し出し数はそんなには減っていないところが、1つ特徴があるんでしょうね、そのあたりでしょうね。

いろいろこの資料によって今、我々示されたわけです。

○（館長） 図書館協会からいただいております答申について、ちょっと時間いただいて、どう

いうものか説明させていただきます。

○（事務局）まとめを簡単に延べさせていただきただけにしたいと思います。

現状と課題というところですが、貸し出し冊数が1,999人をピークに徐々に減少して、2006年には下がってきまして、2006年から後は横ばいであるということです。

それから、資料費につきましては、1994年をピークに大きく減少しているということ。

で、正職員数につきましては、最大34名いたものが、平成22年度には17名ということで、減ってきているということ。

で、その後、新人の採用などはなく、年齢構成については高齢化している。嘱託とアルバイトで分館の経営を行っておりまして、人件費の削減に努めておるということです。

施設につきましては、2階にある三宅図書館、天美図書館、あるいは3層構造になっております松原南図書館など、バリアフリーの点で不備がございます。で、トイレなども、障害者や高齢者には不便がございます。

施設の老朽化というのは、すべての施設で問題があり、雨漏り、空調機器の老朽化などの問題があります。このあたりが、1の現状と課題というところの1番でまとめられているところです。

次に、2のほうのIT社会への対応の遅れというところですが、ここではコンピューターの更新がおくれてインターネット予約ができないなど、情報提供におくれがあるということでまとめています。

3番の社会における図書館の期待というところでは、児童の帰宅時間がおくれていて授業時間の変化などがあり、以前に比べると子供の帰宅が遅くなっているということ。防犯上、図書館へ子供だけで来るといことは難しくなっているということ。それから、高齢化社会を証明するように、平日昼間の利用者は高齢男性の割合が多く、滞在時間が長い利用者が多いと、こういうこともまとめております。

大きな2番、今後の図書館の整備、重点的な取り組みというところですが、図書館といたしましても、市の財政健全化に努力することが必要であり、図書館を集約して資料の一覧性を高める。

また、司書の正規職員の適正な配置も必要である。それから、コンピューターシステムの更新で、高機能の図書館サービスを実施するべきである。それから、障害者、高齢者へのサービスを充実すること。

子供へのサービスのあり方といたしまして、赤ちゃんから児童・青少年がくつろいで、自由に楽しめる生きがいや場所の提供が必要である。

それから、学校との連携によりまして、学校図書館の充実や運用での協力を進めていくことが必要であるということ。そのあたりをまとめております。

最後に、6番のところまでいきますが、市民とともにはぐくむ図書館運営組織づくりということで、市民共同の図書館づくりを進めていくことが必要であるということをもとめております。

全体としてのまとめになりますと、図書館運営にかかるコストの削減が必要であるということ。市全体の施設のあり方の課題もあり、今後も審議が必要であるということをもとめております。

以上、簡単にまとめさせていただきました。

- (委員長) ありがとうございます。平成23年2月に、この図書館協議会の仕組みというのが出されているわけですが、ここで当委員会をつくるのは、もうここで答申されていることにまた逆戻りしてやっていきますと、大変な時間がかかると思いますので、これを1つの出発点、あるいはこれを尊重した上でやっていくのが妥当じゃないかというふうに考えております。

で、そのあたりでいろんな点、要するに、IT社会化への対応のおくれ、老朽化への対応、いろんなことが指摘されております。

それと同時に、図書館の整備、それから既存の施設の統廃合等も指摘されておりますので、そういう観点から、この委員会でも検討、議論してまいりたいと思うんですが、ここまで事務局のほうからいろいろと資料の説明等ございましたけれども、御質問等、あるいは御意見等ございましたら。

- (委員) すいません。まず、資料の2の説明のところ、松原市の近辺の周辺の図書館の比較ということで、駐車場の話をされていたんですが、何台規模ぐらいの駐車場なんですかね。

ちょっと気になったのは、駐車場自体があっても、今、2台とか3台ぐらいだったんじゃないですか。だから、どのぐらいの規模なのかなというのがちょっと知りたいなど。

- (事務局) はっきりした数字まで把握しておらんですけれども、例えば陵南の森であるとか美原図書館であれば、数十台単位でいけると思うんです。あと、それから、堺の北図書館でありましたら、これ北の区役所と同じ建物みたいなんですね。ということで、ここも数十台はいけるんじゃないかと考えております。

- (委員長) これ、例えば、この美原の図書館とか陵南の森、あるいは堺市立北図書館ですか、その図書館の駐車場はなくても、その周辺に買い物ショッピングセンターがあったりして、そういう駐車場を利用できるということはないんですか。

- (事務局) そういうのも実際にはあります。

例えば、堺市の北図書館であれば、横にしんかなCITYがありますが、「大きなのがありますね」と呼ぶ者あり)そこにお買い物に行った方が、ついでにここに寄られるとか、あとそれから、羽曳野の陵南の森でしたら、この間、陵南の森の方に、直接ちょっと聞いたんですけれども、横に万代ができて、万代ができてから、どうやら非常にふえたという話も聞きました。

- (委員長) そうですね。ただ、そういうところ等で、で、松原市には我々感じさせたところは、図書館がないところの周辺に、そういうものができる可能性っていうのは、ほとんどないですよ、残念ながら。

- (委員) 郊外型の大型図書館を持つてはるところは、割と複合施設で単館じゃないところ多いでしょう。だから、図書館としての駐車場というよりは、その総合施設の中の図書館が利用できる駐車場スペースが広いから、案外、やっぱり河内長野とか富田林の話聞くと、一極集中のほうが利用価値高いという話は、もうしはってたんですよ。

- (委員長) 私も今、和泉市に住んでいるんですけど、和泉市も2つありますが、新しくできた

和泉中央のほうは、もう本当の複合施設の中に入っていて、で、駐車場も全部そこにありますから、山のほうからでも海のほうからでも、そこに借りやすいとか利用しやすい。

で、その周辺がショッピングセンターですから、そういう利用は実は、大分、もうそういう傾向になってきているようには思います。

○(委員) 松原の場合は、駐車場があるとかないとかいうのは、僕はあんまり影響ないと思うよ、「うん」と呼ぶ者あり)松原の場合は。

もい、ほとんど、ここあんまり車で来られている方は、余り経験ないですね、徒歩か自転車やと思いますね。

だから、その駐車場があるからどうだと言うのは(「利用しやすい」と呼ぶ者あり)あんまりないのかなと思いますけれどね。

○(委員長) 今先ほどのこれなんかを見ましても、例えば松原図書館とか駐車場あるところは、もちろん車で来られるんですけども、この新町図書館とか三宅図書館ですか、このあたりは、要するに近所の方が利用される率が高いから、歩いていける、それか自転車でも行ける。

○(委員) 近所の方で、私、非常に図書館、利用させてもらっている市民の1人や思うておりますけども、顔見知りの人が多いですね。

○(委員長) ああ、なるほどね。

○(委員) 時間帯も、曜日も、大体同じ。さっき事務局が言われた、例えば朝、来て、新聞読んでどうだとか、雑誌を読むとか、そういう人が多いですね。

○(委員長) 要するに、そこは交流の場みたいに・・・

○(委員) 交流の場というよりも、そこで時間をつぶすというか。

○(委員長) つぶすようなそんな感じですね。

○(委員) そういう感じ。その、だから図書館の利用の目的が、いろいろその人その人で違いますから。

○(委員長) はいはい、違いますね。多様化してきていますね。

○(委員) だけど、割と、高齢者の人はどうしても多いですから、もう新聞、家でとらないで図書館で見るとか、雑誌とかないんで図書館で見るとか、そういう方、結構多いですね、見ていますと。

○(委員) これ1つ、蔵書をするというお話があったんですけども、館が多いと、当然、基本図書としてはかぶりますでしょう。例えば、8館に最低に1冊ずつは置かなあかんということのほうは、やっぱ8冊あるという、一定のボリュームが大きくて、アイテムがじゃあ、どんだけそろいかということなんですか、これは大きい図書館じゃないと、なかなかアイテムそろいにくいと思うんですね。

その点では、蔵書数がイコールその図書館としての魅力ある蔵書かっていうことになると、一概には言われへんのちゃうかなと。

例えば、高い本でも、中央図書館に1冊あればいいっていうアイテムあれば、今、8館あるか

ら、8館に延べでいうと8冊置いているという可能性のほうが、結構あって、効率的にはどうかということもあると思うんだよね。

だから、ここは老人用の図書館で、ここは児童書がたけているとか、メリハリがあればいいんですけども、なかなか図書館費用でメリハリつけにくいと思うんですね。

どこも満遍なく児童書も置きたいし。

○(委員長) 同じようなものを置く。

○(委員) そうそう。そこらが、その専門書というよりは一般書のほうがリクエストが多くって、中央図書館が、例えば資料的な要素の図書館のあり方と、一般にいう身近に歩いていける図書館のあり方で違いませんか。

○(委員長) 利用が違いますね。

○(委員) そこらでいうと、蔵書数が、一方、そのアイテムとして充実しているかという問題とは、ちょっとかけ離れるところあるんじゃないかなと思うけどね。

○(委員長) それは、はい、どうぞ。

○(館長) 今の委員の話の中で、1点だけちょっと御説明させていただきたいのは、松原市自体8館ございます。8館ございますけど、全館にある一定の部数を、8冊そろえておる図書っていうのはございません。

っていうのは、先ほど申し上げましたように、ちょっと資料費が年々下がっていておりますので、やはりその予約の多い資料、そういうふうなものを選書会議でかけまして、何冊購入するかを決めて、8館に分散するという形をとっております。

それで、どんどん追加が入ったとしても、全部8館、その資料をそろえるということは、今はうちの図書費の運用上は非常に苦しい中ではできない。

だから、8館ございまして、全体で四十七、八万冊ございますけれども、これはすべて8館に分散しておるっていうことで、先ほど申し上げている中でいいますと、来館された場合に、分館には4万冊、大体2万9,000、一番少ないのは新町で2万8,000冊か2万9,000冊。

それで、分散しておる関係上、そこに来館して欲しい、お目当ての本がないという場合につきましては、8館で検索をして、例えば天美にありますよっていう話をさせていただいたときに、すぐにお手元に届けれない。

だから、二、三日かかりますというところで、もう、そんだけかかるんやったら、もうきょうは借りていかないっていうふうな事例というのが、結構多いっていうのが松原市の今、その8館を運営している以上、そういうふうにやむを得んのかなっていうふうには、御理解をいただいているのが現状でございます。

だから、どうしても見学していただいているときに感じていただいたと思うんですけども、分館は、本当にスペースが少なくって、座るといって、ゆっくりそこで時間を過ごすっていうような空間もございませんので、だから、そういうところが今、資料費っていう形の中の運営も1つはあるんですけども、新鮮な資料がどんどん分館に届かないというのものもあるんですけども、

現実としては今、すべてそういつてない、そろえないというような市民の利用者からの要望も出てきておるのは事実でございます。

だから、松原図書館に土曜日、日曜日に車で来たり、わざわざ自転車で遠いところであっても来て、資料を探して、で、持って帰るといような形があらわれている。

で、先ほど、委員がおっしゃったように、おなじみの利用者っていうのは、各地域間ごとにおられて、行って、ある一定のリクエストをされて、二、三日待って入りますよとかいう形の御利用をしておられる方もおられるっていう形になろうかと思うんだけども。

○(委員長) はい、どうぞ。

○(委員) 貸し出し冊数について、今の現状をどういうふうな形で把握されているのか、その辺、ちょっと聞かしていただければ。

それっていうのは、ほかの市さんの状況でいうと、結構、貸し出し数が多い市町村あると。それと、あと資料費ですか、その辺との関係っていうのは、今、具体的にはそういうふうな関係についてはお持ちなのかどうか、その辺もう1回ちょっとお話聞かせていただきたい。

○(事務局) 貸し出し冊数の差につきましては、多い館も、もちろん少ない館もいろいろあるんですけど、状況の違いというのがございまして、開館日の差というのがあります。

松原市の図書館の場合は、年間288日の開館日なんですけれども、多い館になりますと、例えば、羽曳野市立ですと342日、府内で一番少ないのが門真市ですが、272日です。これは年間でいいますと、大体70日の差になります。70日の差がありますと、これが当然貸し出し冊数に反映してくると思います。

で、他市と比べるときは貸し出し冊数の差は、そのあたりは考えないでいけないと思います。

あと、松原市だけで、その貸し出し冊数を考えていく場合なんですけれども、開館日は少しずつはふやしては、祝日開館をしたりして開館日はふえていますけれども、ここ3年は横ばいから少しこしは持ち耐えています。これは、資料費の持ち方を考えますと、そういうことになるのかなという分析をしております。

○(委員長) これ、表を見ると河内長野市なんかは、非常に図書室で貸し出し冊数が多いですね。これなんかは何か違う理由が。

○(事務局) 河内長野市の貸し出し、開館日が342日ということで、松原市と比べますと約60日ぐらい多いと見ております。

○(委員長) 河内長野と羽曳野が、じゃあ同じぐらいですか。同じぐらいの開館数。

○(事務局) そうです。

この342日っていう開館日はどういう体系かといいますと、ほとんど毎日あいている状態で、土曜、日曜も含めて。で、休むのは年末年始、それから河内長野の施設は月2回ぐらいの休みです。

○(委員) ただ、日数だけじゃないよね。基本的に、長くあければあけるほど、よくなるんじゃない。

○(事務局) 開館時間ですか。

○（委員）　そうですね。基本的に言や、時間もあるかもわからないけども、ちょっと誤解されるのはあれなんですけども、来館者の調査結果というふうに当たるといのは、単発での調査やけども、5時半から7時という形でも、そんなに大きくいつてない。

だから、これをもって、すべてのデータをあらわすんじゃないので、日数がふえればふえるほど、確かにその比率の問題はあるかもわからないけどもどうなのかなというのと、システム的な問題はというふうになりますか、松原に関して。

○（館長）　今、委員が質問というかありましたのでお答えをさせていただきますと、ほとんどこちらに上げさせていただいている資料3に値する市につきましては、すべてインターネット予約が可能である。

○（委員長）　はあ、可能なんですか。

○（館長）　ってことです。

それと、先ほど委員長から御指摘がありました河内長野市は、これは新しい図書館が、平成14年にオープンしてございまして、私も見学に行かしていただいたんですけど、非常に資料が新しく、やっど書庫が満タンになったかなというぐらいで、毎年毎年、資料費を計上しておられる。

1つ、先ほど事務局のほうから説明がありましたように、資料費とかいう、新しい本を買って、資料として整えるってことの重要性、それとあと回転率の問題があろうかなと思います。

いわゆる今現在、松原市の市民図書館、すべて8館につきましては、貸し出し冊数に制限がございません。2週間以内で読める程度ということですので、冊数には制限してございません。

ところが、インターネット予約をされている市町村、今はほとんど大阪府下で貸し出し制限なしってところはございません。松原市だけです。これが、1つ言えば、松原市の特色かなと。反対に言えば、それだけ資料をたくさん個人の方が持っておられる、回転率が悪くなる要因の一つかなというふうには考えております。この点につきましては、今、内部でいろいろと調査・検討を進めているというところでございます。

で、正直に申し上げて、河内長野の資料3を見ていただいたら、資料費が1人当たり284円ということですので、松原市が186円ということであり、100円以上高いっていうふうに出しておりますので、現状の話の中で、やはり新しい資料を新しい館で整えてスタートを切っておられる。

で、複合施設でございますので、各公民館の事業等もやっておられて、非常に駐車場も地下2階で非常に広いスペースがあるというのが、河内長野の特色かなというふうに思っております。

それと、羽曳野さんにつきましては、資料費はうちとほぼ変わらない状況の中で、なぜっていう話になっていくんですけども、このあたりも、やはり羽曳野さんとしては、今、申し上げたように、時間の開館日数で開館時間の延長という形を取り組んでおられるのも事実でございます。

で、その中で資料の回転を早くしてっていう話の中で、努力をされてあげておられるのかなというふうな気も、若干しておる次第でございます。

○（委員）　すいません。私は、ちょっとその図書館を見たことないんですけども、複本も結構

入れているんですかね、その両市。だから、よく借りられる図書は複本を多く入れて、貸し出し数を伸ばすっていう原始的なやり方があるんですけども、そういう形にはなっているんですかね、やはりあんまり新しい図書館だと。

- (館長) ちょっと、そのあたりまで細かくはちょっと聞けてない部分もあるんですけども、松原市のお話をさせていただいたら、要は、リクエストに多く入ってくるやつは、ある一定の基準をもって複本を購入しておられるというふうな要素はあろうかなと思います。

だから、やはり貸し出し冊数だけにこだわって、その部分を実績として見るのが、図書館の評価につながっておりますので、まず、指定管理をされているような市町村があるとなれば、当然、実績っていうのは求められますので、図書館として。

そういうふうな複本の購入の仕方、いわゆる貸し出し冊数を上げるにはどうしたらいいかっていうふうな努力の仕方は、その直営の図書館と指定管理をされている図書館の運営とは、若干違ってきているとは思いますが。

松原市も同じように、複本の設定につきましては、選書会議でリクエストのかかってくる状況を見ながら冊数をふやして行って、いわゆる複本をふやしていくという状況でございます。

なるべく、その図書館の使命として広く、多くの資料を集めるというところの部分っていうのをどうするかっていう部分は、他の図書館でもあるとは思いますが。

- (委員) それ今、利便性で開館日数の年間開館日数であるとか営業時間であるとかというのが出てはいるんですけど、35年ぐらい前で、僕らが学生時代に夏休みに勉強するいうたら、藤井寺の図書館の自習室まで行っただけですよ。

いうぐらいに、学生がちょっと勉強するのに、図書館の自習コーナーというのが割と少なくて、僕、松原でも東のほうですけども、当時でやっぱり藤井寺の図書館まで、自習室を頼りに何人か出てきて勉強を夏休みするのに利用したことがあって、やっぱり松原の今、図書館を見せていただいて、歩いて行ける利便性と、じゃあ、学生にとってその自習室っぽく使えるところがどんだけあるかという、何か少ないような気がするんですよ。

だから、その来てほしい反面、学生がじゃあ行く、利用目的の中に。

- (委員長) 利用したいと思えるような、そういうものになってない。
- (委員) そうそう。うん、そこまでやっぱりちょっとその学生が敬遠しているじゃないですけども、図書館行って何するといったときに、じゃあ、自分がハングル語勉強しよう思うてスペースがあるかいうと、なかなか中央図書館でも見せていただいて、やっぱりちょっとしんどいやろなっていう感じがしてね。
- (委員) 松原の場合は自習するためのそういう図書館じゃないわけ。(「だね」と呼ぶ者あり) なんで、だから、それは学生だけじゃなしに、一般の人にとっても、物すごくそのスペース少ないですわね。

先ほど委員が言いはった、藤井寺、僕も実は藤井寺、よう利用するんです。僕は市外では陵南の森と藤井寺をよう利用するんです。(「ほう」と呼ぶ者あり) うん。

それが何でか言うたら、2つ僕、理由があって、これは自分のちょっと関心のある本が、これはどうしても歴史、郷土資料になるんですがね、特色があるんですよ、陵南の森と藤井寺市民図書館、物すごくその郷土資料、河内、大阪付近、そういうなかなかないような本まで取りそろえてあって、なおかつ、もうその場で調べられると。

だから、調べるというところが、松原の場合、なかなか行ってもできへんです。だから、その借りるだけじゃなしに、図書館でどういうふうな利用するかやね、それを物すごく今後、考えていかんとね、それがもっと大事になる、特色ある図書館をつくる。

併合してもええんやけども、そのためにどういう蔵書、どう利用するかいね。今は、もう何でもかんでも、リクエスト多かつたらしようとか、それってやっぱり特色あるのかね。やっぱり調べるというスペース、こういうことが非常に大事ですね。

○(館長) 今、委員おっしゃったように、正直申し上げて、松原市の8館をとりあえず手元に資料をとどけようという、そういう届けるボックスという形の中で、施設が整備をされていった経緯がございまして、非常に調べるために、そしたらテーブルがたくさんあるとか、いすがぎょうさんあるかっていうたら、見学していただいたとおり、非常に少ないっていうのが各分館ございます。

で、松原図書館につきましても、そういう形の中で、夏休み、ちょっと2階の集会室を開放して今年度やってみました。

で、その結果として28日間、イベントとか子供向けの行事とかが当然、ありましたので、その日は貸し出しをしないということで、7月の20日から8月31日まで28日間開館しまして、延べで、あくまでも延べなんですけども、332名の方が御利用なさっておられたと。

ただ、この中で、小学生は32名だけだったんです。で、中高生が大体69名、70名ぐらいで、大学・大人っていうのが、圧倒的に231名っていう形になりました。

で、反対言いましたら、小学生であの広い集会室ですので、100人以上入る部屋なので、当然、教室みたいな形で並べておりましたので、余り小学生の低学年が1人、ぼつんと勉強しているのはいかがなもんかなということで、小学生はできる限り下で、で、館内放送等をさせていただいた関係かなという気はするんですけども、大人の方の御利用が多かったように思っております。

ただ、これにつきましては、本年実施という形じゃなくて、テストでやっておりますので、広報等のPRはしておりません。場内の掲示のみで終えましたので、このような結果になったのかなと。

ただ、今、委員のほうから御指摘がありましたように、新しくできる館につきましては、要するに和泉もそうですけれども、委員長も御存じのように、かなり広いスペースです。38席ぐらいかな、自習室というのを設けておられて、で、新しい図書館には、すべて調べるような机といすが、かなりの数でございました。

だから、そういうふうな施設が、今の新しい図書館には求められているアイテムなのかなとい

う気はしております。

その点、今の松原市の市民図書館すべてを見ても、その点については、まだ十分充足しているとは言えない状況にあると思っております。

- （委員長） だから、そういう意味での利用者サイドのサービスの向上というか、それを見ながら、両方で考えていかないといけないでしょうね。

松原市の場合は、歩ける範囲内の図書館という、ちょっとその特色があるんですよね。ただ今、副委員長がおっしゃったように、図書館、図書館の特色があるっていうのはないんですよね。どこそこにいけばっていうあれはないんですよね。

- （館長） おしなべて、すべてが同じようなタイプで。

- （委員長） みんな公平っていうか。

- （館長） だから、新町行かれたときに見られたように、児童コーナーのカーペットが座布団1枚っていうカーペットが置いてあった。

だから、あれがすべての象徴で、いわゆる幕の内弁当状態になろうかと聞いております。（発言する者あり）

- （委員） さっき、夏休みの自習室の、それはあれですか、図書館の本を利用することを前提に、下で借りて上に持っていくと。

- （館長） でも可能です。

- （委員） で、もう全く借りなくて、もう自宅から自分の調べ勉強をする。

- （委員） だから、そのほうが多いんでしょう、実際は。

- （館長） はい。だから、図書館の本を利用する場合は、下の自習室っていうか自習コーナーっていうのがあるんですけども、何分、もう既に10時の段階で並んでおられまして、オープンと同時に自習しようとして思ったら、6席しかありません。

だから、6席はすべて満タンになります。で、あとテーブル席に、その6席埋まった段階でテーブル席に行かれて、隣で大人の方が新聞を読みながら、子供の方が勉強しているというような状態が、テーブル席には起きております。

で、正直に申し上げて、私が館長になりまして、去年からテーブル席を置くようにしております。今までは、そこにはソファしかなかったということです。

ただ、そのテーブル席をどう今言うてるそういうテーブルの利用の仕方っていうのが、この一、二年、そういうふう新聞を読み広げてゆっくり読める。それと、その横で子供さんが勉強しておられるというような状況が、今の松原図書館には生まれる。

で、藤井寺市さんは、藤井寺さん自体は、もう開館当初から図書館とは別に部屋を席をつくっておられますので、だから、そういうような図書館法に基づく自習室というのはありませんので、だから、できたらそういうふうな図書館は図書館と、同じ中身はあるんやけども、別のところに自習室があるよというのが、一番理想なのかもわかんないなっていう気はします。

- （委員長） 女性陣の何か御意見とか御質問とか。

- (委員) 皆様が言うてくださるのかなと思って、ちょっと私もこれ、資料をいただいて、ちょっとインターネットとかでずっと調べたりもしていたんですけど、8月と9月のその集計したやつで、乳幼児と小学校のほうに1カウントしているんですけど、これは大人と絶対来るじゃないですか。それはどちらかでカウントしているんですか。それとも乳幼児のほうにカウントして、大人にもカウントをしているんですか。
- (館長) 両方しています。
- (委員長) 両方。
- (委員) じゃあ、逆に言ったら、ダブっている。
- (委員) 親子で来たら、どっちでカウントするか。
- (館長) 親子で来たら、子供と親と(「2人」と呼ぶ者あり)、2人しかカウントしません。1、1。
- (委員) あっ、2人でカウントしているんですね。
だけど結局、ああ、そうです、ああ。じゃあ。(「1セット」と呼ぶ者あり)
- (委員長) 1セットじゃなくて、1セットで数えてないとう。
- (委員) で、たとえやっぱり、堺さんとかやっぱりすごく大きいので、ちょっと何かヒント、例えばカレーライスって思った何か本を借りたいと思ったら、やっぱりインターネットでほんと検索も、まず、そこは松原も一緒だと思うんですけど、検索もできるんですけど、何か検索題、よく人気投票じゃないですけど、そういうのとかも、ホームページもすごく見やすかったし、検索数一位がずらずらと出たりとか、リクエスト数が人気投票みたいになったりとかっていう形で、今、何を皆さん、読んでるんかなとかっていうようなところも、やっぱりわかるのが、じゃあ、これ読んでみようかなっていうのも、ちょっと思ったんですよ。
だから、そういう形で、もうちょっと何かIT化じゃないですけど、そういうのは松原市さんとしては方向はどうしていかはるのかなと思ひまして。
- (館長) 一応、今のシステムは2年間、あと2年ぐらひは運用していきますので。
ただ、次には、当然、インターネット予約、答申でも、図書館協議会からいただいている答申の中にもありましたように、やはり次の更新につきましては、もうインターネット予約ができるシステムというのが、もう基本になっております。
だから、そういう形の運用ということを前提で、これからは予算を組んでいくという形にはなろうかなと。
- (委員) 電子書籍とかも借りれるというんですけど、何かそこは。
- (館長) ちょっとそこまではまだ、電子書籍までは充実するかどうかというのは、ちょっと他市さんの状況を見ていかないといけないかなと。
今、松原市の課題としては、新たなシステムを踏むときに、今言っているインターネット予約とか、自分がどんだけ借りているとか、自動返却、いわゆる貸し出しの延長も含めて、自分のできるようとかいう形の利便性を図っていきなうたいなうたい気はしてあります。

○(事務局) 電子書籍につきましては、隣の堺市さんのほうで、図書館で貸し出しされているんですけども、ちょっと伝え聞くとところによりますと、やっぱり電子書籍のラインアップとして、千数百冊ぐらいしか堺市さんの方で用意されてないってこともあるんですけども、実際の貸し出しというのが、ほとんどないというのが実情ということで、今のところ聞いております。

海外とか、電子書籍というのは非常に大きなウエート占めて決めているという話も聞くんですけども、やっぱり日本ではまだちょっとそこら辺の離陸ができてないのが、今の状況かなという認識をしております。

○(委員長) 私も、電子書籍利用しているんですけども、やっぱり足りないんですよ。

要するに、まだ電子化されてないんで、されてない、デジタル化されてないのがありますから。

○(委員) 資料数自体が、データベース自体が少ないと言われてるんで。

○(委員長) 外国のものは物すごく入るんですけど。

ただ、でも今言われたように、例えば今、よく読まれている本とか、ああいうのはよくありますよね、最近、読まれている本ベスト3とか、それから、その本を借りて、その本の評価を星であらわすとかいうような、ああいうものを見て、ああ、これはたくさんの人が読んでいる、私も読もうかなっていう気は起こさせますよね。(「そうですね」と呼ぶ者あり) うん、ああいうものがあれば。

○(委員) 新しいドラマが始まる頃には、その小説がやっぱり売れるので、やっぱり堺見たら、今やったら今度、10月から始まったやつが一番でずっとあったので、やっぱり見たいなって思ったので。

○(委員長) それがやっぱり貸し出し数にも影響してくるでしょうし。

○(委員) 貸し出しというか、そういった効果もありそうなことですね、別に本当にそんなに借りられなくても。

○(委員長) いわゆる口コミと一緒にですから、あれは、口コミ効果。

○(委員) 図書館の選定で難しいのってね、一番読みたい本というのは、個人で買うんですよ。(「そうそう」と呼ぶ者あり)

で、金を出してまではどうかなと思うんですけども、少し見たいと思うときに図書館に行くと。

○(館長) それは、もうそのとおりでと思いますね。

○(委員) 僕らね、極端に言うと、ナンバーワンが図書館にそろるかという話になると、これはもう個人で持っているレベルがあって、そうじゃなしに、ちょっとマニアックぽくあったりとか、ちょっとマニアなやつとかがリクエストに上がってくるんです。

だから、図書館に上がるリクエストの本が、一番そのときに売れている本かどうかは別ものの可能性あります。

○(委員長) 確かにね。

○(委員) それと、今回、やっぱり各見せていただいて思ったのは、女性の方から見て、図書館のトイレってみんな親切でしたか。

例えば、小さいお子さんを連れていかれる使いに、例えばおむつをかえるとか、お子さんを置いて自分をトイレに行く際にどうしようとかいったときに、ちょっとやっぱり建った時代があるんやけども、やっぱりちょっと古いね、利便性でいうトイレのイメージがね。

- （館長） 正直申し上げて、今は新しいトイレには、必ずどこ行ってもベビー用のチェア、いすがあるとか、で、おむつがえのシートがあるとかいうのが、もう公共施設では当たり前という時代でございます。

だから、図書館についても、今、図書館の協議会からいただいている方針の中にも、そういうところも含めて、バリアフリーも含めて整備が必要かなという御意見をいただいております。

ただ、今年度ですか、子育て支援課のほうからいただいて、無理やりちょっとつけたような、狭いところについているっていう状況で、非常に利用にはちょっと苦しいかなという状況にはさしていただいたという経緯がございます。

だから、要望の流れは、やはりそういうふうな授乳室が欲しい、小さなお子さんがおられて、どうしても図書館行くと泣いたり、ミルク与えるときに小部屋が欲しいとおっしゃるので、和泉の図書館の中にはきれいな授乳室もありましたし、そういうふうな洗面施設を備えた授乳室というところが、今回、そういうふうなコーナーがとればというふうに思っておるんですけどね。

- （委員長） 今、デパートとか、それからモールとか、ああいうところの集客が、トイレをまずは整備する。

- （館長） まずは整備する。

- （委員長） そこをきちんと行きたいというふうにすれば、集客力がすごくアップするというのには言われていることですよ、観光地もそうなんですけど。図書館なんかも、そういう努力は必要かもしれないですね、優しいっていう意味からしても。

- （事務局） すいません、委員の先ほどおっしゃられたベストテンとか、その辺の話でちょっと補足させていただきたいんですけども、今現状を先ほどから申しておりますように、松原市のその図書館システムは非常に古いシステムでございます。

契約の関係で、ちょうどあと2年後、平成25年の10月にはシステム入れかえを予定しておるんですが、それまでの間は、なかなかそういう判定が、IT化をこれ以上進めるというのがしんどい状況であります。

例えば、予約のベストテンとか、そういうのもシステムから手作業で抽出しないと、今、出せない状態なんです。出したものは、一応、アナログな方法なんですけど、「かわちもめん」という図書館新聞的なやつですね、毎月ありまして、そこのほうに三月に1回ぐらいなんですけども、一応、載せさせてはいただいております。

新システムに変わった暁には、そういうのもちょっと、自動でリアルタイムで出せるようなものになればなとは思っておりますけれども、現状ではちょっと今、これ以上のところは、なかなかしんどいという状況でございます。

- （委員長） IT化っていうか、これのシステムのリプレースメントが2年後ぐらいには、結果

的にされているということですね。

○(館長)　そうです。2年に今、事務局が申し上げたように、10月に更新時期を予定しておりますので、正直に申し上げて、今年度ぐらいから財政のほうには、ある一定、長期計画になりますので、お話をしていけないといけないかなとは思っております。

○(委員)　ちょっとよろしいでしょうか。

今のシステム化の話なんですけれども、先ほどの今後のあり方について、核統合っていう話がまず最初にあったと思うんですけれども、それをすることによって、システムをバージョンアップしたり、システム化とかバリアフリーに持っていくことができると考えていいんですかね。

もう、それは別予算か。

○(館長)　松原市全体の予算っていうのが、先ほどの説明にありましたように、もう一般会計で400億から出れないっていう。入ってくるお金が決まっている。その中で、いろんな少子高齢化になってきて扶助金がかかってくる。お年寄りとかそういう形が、僕らもそうなんですけどふえていくと扶助費がかかる。

そうすると、一般会計がもう枠が決まっている中で、当然、圧縮していかないといけない部分っていうのが出てくる。それで、今まで人件費も含めて、図書館費をある一定頑張ってきたんですけど、そうしていくと、8館も維持管理できないような状況になって、それが今の現状でございます。

それをある一定集約して、分散されている資料を集約して、できれば、図書館を何館を分館時代を特色ある館を、先ほどおっしゃっていたように何か特色がないと、そこにわざわざ来ない。

そこが地域的な分で、どれだけのものを蔵書すればいいかというふうな特色を出すか、そういう形の中で、ある一定、効率的な図書館の構築っていうんですか、図書館のそういうようなネットワークを構築していく必要があるのかなと。

だから、8館では、ちょっと松原市の体力が持たない。で、今、松原市の16平方キロの面積の中で、新しい図書館のあり方っていうか、効率的な配置というような形を今検討委員会からお答えをいただくかなというふうには、館長としては思っております。

○(委員長)　一方で、そういうところで、ちょっとこう検討しながら、サービスの向上につなげていくということですね。

○(館長)　そうそう、つなげていく。

だから、そこには投資しないけども、当然、新たな投資が発生します、正直に申し上げて。今、バリアフリーであるとか、おトイレの問題とか、自習室とか、いろんな課題を松原市の図書館が抱えております。でも、どの図書館においても不十分であります。

だから、どっかを私の意見なんですけど、どこかにその中核的な図書館を持っていかないと、今のニーズには充足できない。

で、新しいシステムを組む上においても、今検討委員会からいただいた資料に基づいて、いわゆる8館のシステムを組むのか、何館のシステムを組むのかによって、当然、ネットワークシス

テムに変わってきます、予算も変わってきます。

- (事務局) 松原市の体力という部分で、ちょっと補足させていただきますと、参考まで、松原市ピーク時が13万6,000ほど人口がありました。今、それがだんだん減ってきてまして、平成22年が終わって23年ですね、今現在、12万6,000ぐらいまで約1万人減りました。

今後も、日本全国そうなんですけれど、人口が減っていくという状況の中で、ことし策定されました松原市第4次総合計画におきましても、今までは人口が右上がりの総合計画という形で、松原市、考えておったんですけども、むしろ第4次では、減少率を少しでも抑えるようにしましようという考え方にシフトしておるところで、今までの拡大基調ではなくて、市としてはもう縮小はやむを得ない状態なんだという認識でおるところであります。

さらに言いましたら、人口が減る中で、例えば10年ほど前でしたら、松原市の65歳以上の方というのが14%ぐらいだったんですが、今、それがもう25%ぐらいになっております。1割ほど高齢化が進んでおりまして、生産人口という部分では、人口の減以上に減っておるところでございます。

その辺を考えていかないと、絵に描いたもちになってしまうのではないかとこのところでございます。

- (委員長) まあ縮小・減少あれですけども、それだけでも僕は、住みやすいまちづくりというか。

- (次長) 減少とか縮小ではマイナスばかりという形になって。

- (委員長) ねえ、マイナスのあれですけども、そうじゃなくて、それをもっとポジティブにとらえるっていう。

- (次長) そうです。そうじゃなくて、やっぱり図書館は非常に重要な施設でありますし、文化レベルとか教育レベル上げていくためには、もう大事な施設であるという位置づけは変わらない。

で、8館、今までもともとできたとき、8館、歩いて行ける距離の図書館ということで、つくって運営してきたにもかかわらず、現状、それがイコール利用者がすごくふえているとか、貸し出し冊数がふえているという現状にないっていうことを踏まえると、この8館あるのが、決して、市民にとってもいい状態ではないっていうことがあると思うんです。

ですので、もちろん内容は充実させながら、より利用していただきやすいようなものにお金は投入していきたいっていうことで。

- (委員長) そこへ有効活用をしろということですね。

- (次長) そうです。

- (委員) これな、今、今回、この委員会の名称が適正配置等ということで招集かかってんねんのやけどね、今言っている話から言えば、ここ30年ぐらい、松原市さんが考えてこられた図書館のあり方というか、当然、バックボーン思想としては、歩けるとこへ散らしましようというか、歩けるときにあるのがベターでしょうという1つの方向で経営してきたんやけど、どうもここへきて、他市の新しいあり方見ていると一極集中で、車でも行けるような利便性という

とらまえ方が出てくる中で、多分、最終的には図書館のあり方を問われているようなもんね。

今の8館がええのか、いやもっと集約しても、スケールメリットなり駐車場があって、利便性があるというさらの建物やったらトイレもきれいにつくれるし、建てかえがええのかということ。

だから、まず減らすとか、まず、今の館数がいいじゃなしに、松原の図書館のあり方をまずイメージ、先つくりないと、2館がいいか3館がいいかじゃないと思う。

今のその歩いて行ける図書館っていう利便性を優先するのか、いや、車で来てもらう、雨降った日、もう不都合のないようにしようというほうをベターとするのか。

だから、今のままじゃあかんやろうってみんな思うてると思う。でも、そこへさらに建てかえたからいうてスケールメリットあるか言うたら、そうじゃないわけよね。

やっぱり適正館数っていうことでいえば、図書館のあり方自体問われるから、少し遠くなります。不便かけますけども、お車で来てくださいよ。時間を延長しますんで、もう少し会社の帰りにも寄れますよとかいうサービスの利便性でいえば、館数の多い、少ないと別に、開館日数ふやすとか、営業時間を長引かすとか、何ぼでもその選択肢、まだありませんか。

そこらも込みで（「考えないと」と呼ぶ者あり）考えていかないと、いや、7館になったからよかつたって、こういうわけじゃないような気がするね。

○（委員） 今、ほんまに皆さんがおっしゃってくれはったように、基本的に館数減らすんじゃないかって、前、以前にちょっと地図で700メートルのを出さしてもらって、基本ベースというのは、今、おっしゃったとおりで、もともともう歩いて行ける700ピッチで、かぶった円周を描いた中でということです。

ほたら、重複しているところ、確かに地域性によってはちょっとあふれているところもございませぬのやけども、そういった形の見直しで、田中も先ほど言いました中央館というような形で、何を拠点としてもろうて。

その中で全体をどういうふうにとらまえていったらというふうな考え方に、若干ちょっと、今のきょうの資料とその辺と合わせて、（「シフト」と呼ぶ者あり）頭をちょっとスライドさせてもらって、どんな考え方になるんかなというのが次の展開に、僕、答えてなくて、感覚的な話ですけど。

○（委員長） そうですね。きょう、出てきたいろいろな意見で、要するに、これからの松原市の図書館のあり方を含めて、で考えていって、で、じゃあ、松原のその1つの中央図書館のような形を皆様、メインのものをつくって、つくるといふか、そこをどう充実させるのか、あるいはサービス向上させるのか。

で、それと、全体のサービス向上をさせていくために、どれぐらいの適正にしていくのか、そういうことを含めて、何かモデルケースみたいなものが1つ、もし考えられているのであれば、資料として出していく。

幾つかパターンはあると思いますので、そのときの要するに尺度というか、物差しも大切だと思うんです。うん。何を基準にしてそういうふうと考えていくのか。距離なのか、利便性なのか、

重なりなのか、いろんなものがあると思うんですけども、そこを次回ぐらいまでにちょっと、次回ぐらいまでちょっと、もしできればっていうことで。

- （館長） 前回、今、委員から御質問というか、御意見がありましたように、松原市が8館を整備していたときに歩いて行ける距離、700メートルという形で、主に中学校区で整備をしていた。

で、それに基づいて、1回、事務局としては、どういう絵が描けるか、モデル的な話も含めて、1回、御提示という形で、次回、させていただきたいと思っております。

- （委員長） ただ、それには、やっぱり今の御意見もあったように、松原市の図書館をどう、図書館のあり方をどうすんねんということも含めて考えんといけない。

- （委員） 歩いて利用できる、自転車で利用できる、これっていうのは物すごく大きなメリットやと思います。

だから、それを完全に否定してしまうというのは、松原にとってはちょっと酷なのかなと。そういうのも踏まえながら、人口減少、高齢化、そういうものの背景とした形の配置というのは、おのずと出てくるんじゃないかと思うたりします。（「適正な配置が」と呼ぶ者あり）だから、その辺を踏まえて考えていくというのが1つかなと。

それと、あと現在ある図書館についても、内容的に、今の状況に合わなくなっている、そういうものをどうしていくかということも、1つの考え方なのかなということだと思うたりします。

ですから、図書館のやる内容についての効果とかそういうものを踏まえて、考えていくという必要性があるのかなというふうに、私、ちょっと思うてんですけど、その辺をもう一つ内容として考えていただければ。

- （委員長） はい、ぜひそうですね。

- （委員） この問題、はっきり言うたら、図書館の購入費であるとか、例えば、分母が決まっている中で、頭、金でいうたら毎年1割はカットしますからいうような形で、予算が削減されていくでしょう。

例えば、問われるいう中、費用対効果なるわけで、いや、対象者が減ってんやから、図書館の購入も下がらなと言われたときのディフェンスがしにくいというわけやな。図書館というのは、費用対効果を問われたときに、何をもって満足度が増しているかという話。

- （委員長） それが尺度はね（発言する者あり）あいまいとしていますから。

- （委員） ただ、費用対効果で蔵書数がふえにくい環境にあるから来館者数が減りましたというように、そのスパイラルでいうたら、マイナスのイメージしか出てけえへん数字が出てくるわけやなんやけど、そうじゃなしに、蔵書数と関係なく、例えば毎日、雑誌を見に来る、新聞を見に来るいう来館数は減っていませんよとか、例えば自習室をつくれれば、来館者数ふえましたよとか。

やっぱりさっき言うてる図書館のあり方問われている中でいうたら、多分、予算取ろうと思えば、費用対効果でつかれますわ。要は、どんだけ満足度が上がっている言われたときに、見えにくいからね。

その中で、例えば、その松原の文化を維持するとか、松原の教育のレベルを維持するという文言と、実際に金の動きがリンクしにくいから、じゃあ、それやったらもう少しわかりやすく、例えば、小学校の授業の一環で、図書室へ行く、図書館を見に行く機会をもっと今よりもふやす中で、子供が図書館行くくせつけるとか、そういう費用対効果も目に見える形にしないと、やっぱ予算取りにくくなると思うんですね。

さっきも言うてはるように、自習室が高校生、大学生、中学生、高校生、いわゆるそのくせつけるのに、やっぱり小学校の間に、もっと今の松原市の図書館の中央図書館なんかを今、見に来られていますよ。

でも、その頻度でいえば、何回かのうちの1回の間隔になるわけやから。で、もっと図書館っていうのは楽しいところで、子供にとったら、行けば、例えば宝物があるところでというイメージをもっと機会をふやしていかないと、親御さんの理解が得にくいんじゃないかな、今のままやと。

それは1回、どこがいいのかな、図書費を購入する予算取るのに、皆、費用対効果、どうやって分捕っているのかということやろうね、他市がね。

例えば、さっき言うてはるように、河内長野なんか、今、立ち上がりの時期やから、図書費取れています言えばそれまでやけど、富田林、河内長野などの、新興住宅、非常にふえたところで、こういう大きい図書館つくっているところは、図書館に対してリクエスト高いと思うているんです、こういう本が欲しい、ああいう本が欲しいリクエストがね。それでいきや、やっぱり予算もついてきている可能性あるものね。

松原の図書館も、今言うように、リクエストが入って、で、みんながもっと、さっき言うてはるように、知っている顔がふえれば、もっと予算取りやすいと思うんよね。

それで1回、費用対効果っていうことで、1回、また検討をお願いしたいと思います。

- (委員) 難しいね。
- (委員長) 難しい。図書館とか、こういう文化的な博物館とかああいうものも含めてですけど難しいと思います、確かに。
- (委員) それをクリアせんと、市会議員、うん言わないな。
- (委員長) でも、そうなんですね、予算というところになってくるからね。
- (委員) うん、最終的にはそういうことやな。予算を分捕ろう思うたら、そこで「うん」言う作文をせんとあかん。
- (館長) 去年、次回には市民アンケートというのが、毎年、広報のほうで1,000人アンケートいうのをやっておりまして、その中で、図書館の項目もございます。そんなものもちょっとお出しできたらとは思っております。

で、先ほど、前田委員からおっしゃっていただいた費用対効果ってのは、今、どうやって出したらいいのかなっていうのに、ちょっといつか事務方として考えてみます。

本当にね、今、非常に松原市の財政、逼迫しておりまして、なかなかそういうふうな、いるから要るんやという形の中ではくれない。だから、費用対効果、こういうことがあるからこんだけ

くださいというのを数字できっちり示さないと、予算というのはいかないというのが、今の松原市の財政、ヒアリングの状況でございます。

だから、そのためにもちょっと頭をひねって、何か御提示できたらなと思っております。

- （委員） すいません、ちょっと話が全体像からずれるかと思うんですけども、今回、提出していただいたこの利用調査、これについてちょっとせっかくやっていたいたんで、私、ちょっと気になった点が2件あったんですよ。それについてちょっと。

個別な話になってしまうんですけども、それならとめてていきたいなと思ったのが、まず、この新町図書館、8月25日分のなんですけれども、あと三宅図書館、これが利用者数の年齢層というのを見てみるとわかるんですけども、今言った中の自習室の問題とかいろいろ出ていましたけど、中・高・大学生の利用が圧倒的に夏休みなのに、まあ夏休みだからとも言えますが、少ないですよ、これが。

で、新町図書館で、この地図で見ると、松原第五中に近いんですよ。だから、こちら辺は何かしらのてこ入れとかができるんじゃないか、まあ個別の話は置いておくとして。

あともう一つ、滞在しているお年寄りが多いっていう議論があったんですけども、この新町図書館と三宅図書館って8月25日でも、9月8日でも両方とも少ないんですよ。

ですから、先ほど言った天美図書館っていうのは、1階に老人ホームでしたっけ、があるんですよ、老人の施設が、「はい」と呼ぶ者あり）だから、それで多いっていうふうに特定できますけれども、個別につくっていくこともできるんじゃないかと、ちょっと私は考えたんですけども、この資料を見る限り、2日しか見てないんですが。

だから、老人が、高齢者の方が、本当に求めているというか、利用している図書館というのは、意外とそんなに絞れるんじゃないかというようなことも、ちょっと考えたんです。

- （委員長） この傾向から見て。

- （委員） この傾向からだけですけどもね。

- （館長） まあ松原市、循環バスっていうんか、そういうのもやっております、非常に管内の施設で動くことも可能なんですけれども、三宅図書館はちょっと階段がありまして、あそこはもう大人も子供もなんですけども、なかなか利用者数っていうのが、非常にほかの館からすれば少ないところが課題だろう。

それとやっぱり、新町図書館、スペース的に狭いというのがありまして、中央というか、松原図書館のほうに御近所であれば、もう来られているっていうのが現状かなっていうふうには把握しております。

- （委員） で、全体に雨に弱いよね。

- （館長） 雨に弱いです。

- （委員） だから、日付は出てはいますが、天気状況で言えば、極端に言うたら、雨降ったら行きにくい（発言する者あり）。

- （館長） あんまり、来られる人、返却のときに本が濡れたり、持っていかれるときに本が濡れ

たりしますので、そういうところの問題は、確かに図書館っていうのは雨に弱いです。

○(委員長) ことしなんかは、節電というあれで、ふえたことはないんですか。

○(館長) はい。ふえたとは思いますが。

正直申し上げて、夏休みにやりましたので、現状の中で、そういう意味からいえば、今の季節は、若干涼しいので、お年寄りも少ないかなと思っております。

○(委員長) そのほかに何か御意見とかいかがでしょうか。

じゃあ、ほぼ出ていることはやりましたので、利用者サービスの向上を図りながら、また、効率的な図書館ネットワークっていうところも含めて考えて、次に、そういったモデルも編成していただくというようなことで、今回の委員会はここで終了させていただきたいと思います。

で、ほかに何か事務局のほうから何かございますでしょうか。もし、なければ、また、次回の日程等になるんですが。

○(館長) 次回が11月の4日に第5回の検討委員会を開催したいって思っております。で、時間的なもので申しわけないですけど、午前中で10時開催という形で予定はしておるんですけど、皆様方の都合はいかがなものでしょうか。

○(足立委員長) よろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり) はい、わかりました。じゃあ、今の提案で次回、11月4日と、ちょっと期間短いですけども、よろしいですか、大丈夫ですか。

○(館長) 続けて、この議論はしていきたいなと思っておりますので、できれば4日で。

○(委員長) そうですね、4日のほうが、新鮮なまま、このまだ覚えている間でということ。

○(館長) ちょっと事務連絡で申しわけないですけど、松原図書館、11月1日からDVDの貸し出しを開始します。

○(委員) もう終わったんですけども、ちょっと2分だけお時間よろしいですか。

○(委員長) はい、どうぞ。

○(委員) たまたま、ちょうど今週の月曜、火曜日なんですけども、行政視察、ちょっとありまして、それで、たまたま東京荒川区のほうの図書館施設の見学という形で、ちょっと僕行かしてもらいまして、それで、雑談で聞いてくれはったらいいんですが、荒川というところの図書館という形で行かしてもらいまして、外郭から説明しますと、面積で、松原、16平方キロメートル、荒川区は10平方キロメートル、若干少ないですよ。

ほで、人口が松原は先ほど言いましたように12万6,000、ほで、向こう、荒川区のほうは20万人が住んでいる。その面積が小さくてかなりのもの、密集の状態。

ほで、内容的には、今、下町の風情をちょっと残しておるところで、今回、図書館というふうな形で、向こうも同じような関係で、大体700から1,000メートルというふうな形で、5館をメイン拠点として図書館になつとるんですね。規模的には、ちょっと松原とかなり大きいんですけども、ほで5館。

ほで、先ほどから言うていますように、松原の場合は8館というふうな位置づけで、よく似て

おると。

ほで、ちょっと今回、ポイント的に特色ってなったのは、汐入商店街振興組合というところの空き店舗、今、松原でもどこでもそうですけども、商店街、あいておるというふうなスペースと、その部分を利用して、図書館じゃなくて図書ステーションというふうな位置づけで、ちょっとされてはったんですよ。

ほで、どういったものかという形で、それをちょっと見させてもらったんですけども、ちょっとなかなか比較するのはちょっと難しいと思うんですけども、といいますのは、概要から説明しますと、汐入商店街というのがあるんですけども、それはもともと区画整理の土地を東京都がしはったんですよ。

ほで、本来は敷地から言いますと、担当の方、敷地の説明をされなかったんですけども、地図の説明からすると、立部の府営住宅がありますやろ。あれの敷地の3倍強ぐらいというふうに理解してくれはったらええと思いますわ。

ほで、もともといろいろな土地の権利者がいてはって、長屋住宅の密集地で4,000人ぐらいがお住まいになってはると。

ほで、東京都がそこ、区画整理をされて、今現在で1万人を超える規模に膨れ上がってるんです。ということは、共同住宅、高層住宅を建てはって、ほでなおかつ、住環境スペースというふうな形で、植栽もとりはって、道路も広くとりはるし、ほで空間スペースも大きい。

そりゃかなりもうきれいな場所で、分譲のマンションなんですけども、大体、そのときに比較的に入人口である程度の層を入れようという形で、もう築、結構経っているんですけども、五、六千万の世界の分譲ですので、東京都の荒川区で五、六千万いうたら安いほうやと思います、担当が言うてはったんで。

ほで、かなりの倍率で入りはったということは、僕も町、歩いたんですけども、若い人の方が多いです。「ああ、なるほどね」と呼ぶ者あり)はい。ほで、一般的に30代、40代の方が自分たちでローンを組みはって、それから子育ての時期とかその辺も真っ最中の方で、子供さんの姿も多かったですし、若いお母さんとか、ほで、近所に横ん中にあるのはテニスコートもありますし、ほで、学校も整備されています。ほで、そういった形の中で、かなり力を入れてされてはる。

で、その一角に商業スペースというふうな形で多分、商業エリアは特定されてはるとは思いますけども、そこに2階建ての商店街じゃなくて、商業施設ですね、をつくってはる。

ほで、その部分に、何ぼ1万人が若い方が住んでおられるっても、基本的には私らもそうですけども、大体車で動きはりますわな。

ほで、スーパーでもある程度、大きなところに行きはって、複合施設のどこ行きはるんです。そこにはスーパーもあって、簡単な八百屋さんとか魚屋さんもあるんですけども、僕らが行ったときは、そこは午前中行ったんですけども、やっぱり閑散としていました。なかなかそんなに活気を帯びてない。というところは空き店舗が出てくる。

ほで、商店街のほうとしても、やっぱ空き店舗の関係で活性化していきたいというふうな形と、荒川区の行政的にとのエリア的には東のほうの、荒川区の東のほうになるんです。

そこは、先ほど言いました、700メートル、1,000メートルピッチでいくと、ちょっと外れている、5館からちょっと外れているエリアだったんです。

ほで、そのエリアを利用なさって、ほで、面積でいうたら五、六十平米のエリアを、まあこのぐらいですよ、そやから。そのぐらいのエリアの半分を賃貸契約なさって、そこに図書ルームをステーションをつくった。

ほで、今、僕らが行ったときは、ちょっとたっていて、また空き店舗が空いたので、その向かい側のところに、それも三、四十平米のところのステーション、2つ持ってはる。

ほで、このエリアで何がどうなのというふうな形になるんですけども、物すごく貸し出し数が多いんです。

ほで、本が知れています。はっきり言いまして、五、六十平米ですから、そんな置けないです。（「うん、そんな置けないですね」と呼ぶ者あり）そやから、単行本とか小説とか置いてはったけども、何がメリットなのって聞いていきましたら、周り、先ほど言いましたように、1万人のバックボーンがあるんですよ。

ほで、松原も先ほどおっしゃってくれてはったように、ITのネットワークが荒川区は物すごく進んでいると。ほで、インターネットを使って、図書検索して予約して、ほで、届け先をそこにしてはるんです、サービスステーションに持ってきはるんです。

そやから、今言うた若い人がいてはるんで、ゆったりとネット検索なさって、ほで何々の本、ここへ届けてという形で、図書の貸し出し数が、もうことしになって、去年ぐらいから圧倒的にふえているんです。したら、そういった形の中で、一応、見学すると。

で、担当の方、言うてはったんは、たまたま今回、空き店舗を利用してやっていってるけども、それぞれの松原市にそれを移行できるかいうたら、なかなか難しい。

だから、極端に言うたら、商店街にどうしても分室をつくって、どうなのという話も、実はあるんですけども、いろんなやり方っていうふうな範囲の中で、ちょっと参考になればという形で。

そやから、インターネットを利用した流れの中で物事が動いているんだなど。ほで、逆に言うたら、それを利用することによって、例えば、向こうの東京の方が言うてはったのは、もともと考えていたのは、クリーニング屋にそれをお願いしようかなど。

○（委員長） ああ、配達も含めてですか。じゃなくて。

○（委員） うん、いや、そこへ持ってくるじゃなく。ほで、庁舎の職員が運んでいって、まあ言ったら窓口対応みたいな形でやろうかなどうかなちゅうことで、それは相当かなりもとがかかるんで、ちょっと断念しはったけども、頭の中の発想としては、そういった発想で物を見てはるみたいです。

○（委員長） ああ、なるほどね。（発言する者あり）そうですね。

○（委員） ただ、そやけど、そのバックになるというというのは、いつ図書室であって、私ら

が行った中核の施設のほうで、メイン拠点のところで研修受けたんですけども、申しわけないけども松原とは比較になりません。

複合施設で、ふるさとぴあプラザというふうな博物館、1階にありまして、で、図書室持ってはって、2、3、4の4階建てで、ほで、2階、3階についても、職員数が、向こうで大体、直営で今、直営じゃない、市職員と嘱託とアルバイトでやって、100人ぐらいいてはるん。

ほで、松原の場合で四十何人やな。「47人です」と呼ぶ者あり）ほで、約2倍強の人員を抱えてはって、ほで、その中で、年間で大体、資料費で8,000万を組んではりました。

そやから、そういった形の中で、メイン拠点となっている。

○(委員長) それで、きちっとせんと、やっぱり成功しないでしょうね。

○(委員) うん、違うんですよ。

そやから、そういった形の中で、荒川区でスカイツリーが見えるんですよ、私らも、帰り、スカイツリー見にいまして、スカイツリーは見えるんだけども、向こうの担当が言うてはったんは、荒川区というのは、もう来週ぐらいから、到底、100年を記念してイベントを組んだり、いろんな関係でまちおこしをしようと、してはると。

ほで、スカイツリーを来はったお客を、どう呼び込んでいくかという形を物すごく考えてはりますよ。ほで、ただ、そういった形の中で、図書室の関係についても、中核的な意味合いを持つとか、総合計画が。

○(委員長) 本当、総合計画、まちづくり全体の中の(「考え方の」と呼ぶ者あり)1つでやっていかないと。

○(委員) ほで、今回、僕らが行った汐入の場所についても、かなりの大規模のところでは環境を整備して受け入れして行ってやっていくと。

それから、いろんな背景があるんで、そやから僕は何を言いたかったというのは、この空き店舗で商店街で1つやったらええないうことじゃなくて、それは松原に合うか合わへんか、いろんな問題、そういったやつで、ちょっと頭を柔軟にしていいたら、ちょっとなかなかおもしろいもんが見えるのかな、ちょっと参考という形で、ちょっと行ってきたらところだちゅうんで、ちょっと報告させていただきました。

○(委員長) わかりました。ありがとうございます。参考にさせていただきます。

○(委員) これ、きょう、話があった中で出てなかったんやけどね、例えば、図書館の管理経営でいえば、例えば、指定管理者制度を利用して外注委託するとか、合いみつとって安いほうで、例えば外注さんでさすとかっていうのを現実問題、今週辺でどっかやってはりますか、市町村で。

○(委員長) 大阪狭山市さんが指定管理を導入されています。で、直近で言いましたら、羽曳野さんが、一部のちっちゃいところだけを委託なさったという、業務委託もあるでしょうし。

○(委員) だから、それも例えば1つの流れとしてあるのかどうかですね。

○(委員長) うちの大学の図書館もほぼそうですよ。

○(館長) 委員長が言われた和泉図書館とかは、もう全部指定管理、新しく開館されておるとこ

ろは指定管理。

そういう意味で、今、したら大阪府下でも指定管理は、大東市さんとか和泉市さんとかいう形で、だんだん導入はかかってきている図書館があることはある。

○（委員） で、多くは、例えば図書館とか体育館とかいう文化会館施設関係ね、今、松原市やったら、教育委員会の中の社会教育部の配下にありますでしょう。

で、このごろ、教育委員会が学校教育だけにして、社会教育はもう市長部局の中、直轄部分なとこにあって、ってなると、図書館も何か教育委員会の中にあるのかなというのが、どこの所轄かわかりにくい市町村ってあるんですよ、話聞いているとね。

そこらは、予算が取りやすい部局っていうような感じで。

○（館長） どこにあっても、取りやすい、取りにくい点はあるやろうと思うんですけどね。

○（委員） うん。ただ、やっぱりそのかわり、社会教育関係、市町村室とか市長部局の直轄のことというのは、やっぱそれなりにいっぱい短い分だけ、何となく権限はついて回っているんかどうかようわからんですよ。

ただ、今みたいに、細かく細かくしていったときに、たたかれやすい（「末端になる」と呼ぶ者あり）末端と、ちょっとそこらが、また参考にわかったら教えてください。

○（委員長） わかりました。

○（館長） そしたら次回の確認だけ。11月4日のこの場所で、「ここですね」と呼ぶ者あり）同じように10時から。

○（委員長） はい、わかりました。

○（館長） それでは、できる限りの資料はそろえさせていただきます。もし何か時間がありませんけれども、早急にこんな資料が欲しいっていうことであれば、私ども、事務局のほうにお電話いただいたら。

○（委員長） どんどん意見を出していただいて。

○（委員） 今、いろいろなサービスで今後のあり方ということを検討するに当たって、最近の図書館の中の今、いろいろケースを出していただいているんですけども、何かモデルというようなものがあれば、そういったものも参考にできるんじゃないかと、最近ですから、いろいろな話題になっていような公共図書館とか、いろいろなものの資料っていうのもあれば、話も進みやすいんじゃないかと、そういうのができれば、あれば。

○（館長） 直近で視察にいきました和泉市さんの資料もございますし、そういうものも、ちょっとまた用意させていただきます。

○（委員長） それじゃ、本日の委員会はこれで終了させていただきます。御協力ありがとうございました。

議事録署名委員
